

9～1月 センターの機能の活用状況

今年度は、当校への就学に関する相談が少なかった分、訪問支援として、多くの学校を訪問し、指導支援について一緒に考える機会が多くありました。今号では、9～1月の状況について、相談例の一部を含めてご紹介します。

① 教育相談	電話相談	8件
	来校相談	3件
	学校見学	0件
	体験学習	0回
② 訪問支援	小学校	18件
	中学校	16件
	幼稚園・保育所	1件
	高等学校	0件
③ 外部専門家派遣		2回
④ 研修支援		5回

(令和7年度9月～1月)

【① 教育相談】

「電話相談」については、例年訪問支援に至らなかったケースのみカウントしています。次年度の指導計画を考えるうえで、教科書（☆本を含む）や教材教具に関するご質問が複数ありました。いずれも、今年度既に訪問支援を行っており、学校やご本人の様子を踏まえて回答しています。

逆に、初めてお受けする事例の相談については、訪問支援に切り替え、学校やご本人の様子を見させていただくことがあります。いずれにしても、一度ご連絡いただければ、その後の対応をご案内いたしますのでお気軽にご連絡ください。

【② 訪問支援】

今年度も、多くの学校に訪問しました。多くの場合は、授業の様子を観察した上で、事前にいただいた主訴に対して教職員への助言をしています。その他の訪問支援の活用方法として、「保護者支援」として保護者との懇談に参加したり、「他の関係機関への連携支援」として関係者会議等に参加したりするケースも増えています。

特に「他の関係機関への連携支援」については、小中学校と福祉関係者との連携が進む中で少しずつ増えている印象です。分野が異なる専門家との連携の中で教育課程等の学校事情をうまく説明できない、相手が使う専門用語を十分に理解できない等のすれ違いが起こることもあります。医療や福祉に関する制度を全て学校が理解することは難しいと思い



《こんな相談がありました》

質問 小学校情緒障害特別支援学級の児童。衝動性が高く、その場に適した行動が難しい。落ち着きがなく、離席が多い。

回答 ※支援学級・交流学級の授業の様子を見学した後に懇談をしました。

以前に相談を受けた際には、シャトルラン直後の授業で普段より落ち着いている様子でした。数年間の成長で、「多動性」の表出が身体の大きな動きから話す・歌うなど口の動きに代替されている様子でした。今後も外遊びなど十分に身体を動かすことで落ち着ける時間を増やせる可能性があります。

また、「分からない」と思ったときに学習以外の行動をしがちでした。周りの児童への影響が大きく、校内体制が許す範囲での個別指導は有効だと感じます。その中で、できていることをしっかりとほめて自信につなげることが大切です。

【④ 研修支援】

峡南教育研究協議会の各支会への参加は、昨年度から年間の回数に制限を設けています。ご協力いただきましてありがとうございました。

講師として参加できない場合、必要に応じて別の講師のご提案や、研修会の構成のご提案等、できる範囲でスムーズな研修会の運営に協力するように努めています。

その他、今年度も、各町での様々な会議にもお声がけいただき参加しました。今後も、地域の多様なお子さんの支援について学校・福祉・医療など様々な関係機関と連携していきたいと考えています。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。



ぶんこちゃん

ます。その際に、調整役として特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの派遣を依頼するというケースもあります（もちろんスクールソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカー等を活用する、という考えもあります）。

【③ 外部専門家活用】

上記の②訪問支援の件数のうち、外部専門家（心理士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等）を帯同したケースをカウントしています。この期間は、理学療法士と作業療法士の活用がありました。

外部専門家は、他の特別支援学校に在籍しています。また、月に数回の非常勤勤務です。そのため、外部専門家を帯同する訪問支援は、回数に限りがあります。また、一般の訪問支援よりも日程調整にお時間をいただく場合があります。ご了承ください。



《今期の研修支援 テーマ例》

- ・通常学級での困り感をもつ子供の支援方法
- ・中学校卒業を見据えた小中を貫く支援のあり方
- ・インクルーシブ教育研修～学ぶ意欲を保つため

山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校

〒400-0601

南巨摩郡富士川町鯉沢5673-12

TEL：0556-27-0067 メール：wakafujy@kai.ed.jp

地域支援担当：保坂美智子 上田知己 佐藤実 山本千峰